

令和6年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団体名	一般財団法人住友生命福祉文化財団	
施設名	住友生命いずみホール	
内定額	27,516	(千円)

1. 基礎データ

(1) 開館日数・事業本数・貸館日数

項 目		令和5年度	令和6年度
開館日数		200	199
年間事業本数（※1）	主催事業	46	49
	公演事業	27	25
	（内、本助成対象事業本数）	13	11
	人材養成事業	1	2
	（内、本助成対象事業本数）	1	2
	普及啓発事業	6	5
	（内、本助成対象事業本数）	4	5
	その他 内容： 共催公演	12	17
	ホールごとの貸館日数	154	150
	ホール名： 住友生命いずみホール 座席数： 821	154	150
貸館日数	ホール名： 記入してください 座席数： 記入してください		
	ホール名： 記入してください 座席数： 記入してください		
	ホール名： 記入してください 座席数： 記入してください		
	ホール名： 記入してください 座席数： 記入してください		
	ホール名： 記入してください 座席数： 記入してください		

※1 事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

(2) 施設利用者数・利用率

項 目		令和5年度	令和6年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数	24,247	21,857
	公演事業	13,789	12,706
	人材養成事業	196	346
	普及啓発事業	2,841	2,210
	その他 内容： 共催公演	7,421	6,595
	貸館事業入場者・参加者数	66,651	75,490
	その他 内容： 記入してください		
	計	90,898	97,347
	施設の利用率(%)	64.4%	66.3%

※2 実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設（美術館、図書館等）のみへの入場者数は除きます。

(3) 公演事業データ

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	入場者・参加者率	事業本数内訳						
						演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合（※4）	その他
令和5年度	主催公演（※1）	34	34	16,806	60.0%		34					
	共催・提携公演（※2）	12	12	7,421	75.0%		12					
	貸館公演（※3）	154	154	66,651	53.0%		154					
	計	200	200	90,878								
令和6年度	主催公演（※1）	32	32	15,262	58.1%		32					
	共催・提携公演（※2）	17	17	6,595	47.3%		17					
	貸館公演（※3）	150	150	75,490	61.3%		150					
	計	199	199	97,347								

※1 名義主催は除きます。

※2 名義共催を含みます。

※3 「貸館公演」における「入場者・参加者数」及び「入場者・参加者率」は概算で構いません。

※4 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

2. 公演事業の実績記録と自己評価

(1) 各公演事業における 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標(値)

・ 令和6年度助成対象事業のうち公演事業について、助成対象事業ごとに自己評価を記入してください。

事業 番号	事業名	入場者数		入場 者率	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	備考
公-01	ルドルフ・ブッフビンダー	目標 値	539	70.0%	アンケートの満足度	上位2項目で80%以上	95.60%	すべての項目で設定した目標を上回った。ウィーンの伝統の系譜に連なるアーティストによる芸術性の高い公演をお届けする所期の目的を達成できた。加えて、専門家による批評記事が1件掲載された(音楽の友9月号)。		
		実績 値	553	71.8%						
公-02	いずみシンフォニエッタ大 阪 第52回定期演奏会	目標 値	431	56.0%	アンケートの満足度	上位2項目で80%以上	95.20%	入場者数・アンケートで目標を達成した。有料入場者数の未達成は現代音楽の普及の難しさ改めて認識させられた(反面、若年層の来場やサポーターが増加しており、次世代につながる成果と考えている)。事前記事は12件。		
		実績 値	471	61.2%	専門家による批評記事	掲載2本以上	1件			
公-03	和のいずみ 第2回	目標 値	533	69.2%	アンケートの満足度	上位2項目で80%以上	96.60%	すべての項目で設定した目標を上回り、邦楽器の伝統と可能性を伝えるという所期の目的を達成できた。若年層や、初来場者の占率も高く、次世代につながる音楽文化の拠点としての役割を一定果たせたと考えている。		
		実績 値	649	84.3%						
公-04	オペラ《真珠とり》	目標 値	654	84.9%	アンケートの満足度	上位2項目で80%以上	98.40%	アンケート・批評記事が目標を達成。5年ぶりのオペラが注目を集め、事前の記事も多く掲載されたが、台風による交通機関の乱れが影響し、来場者数が伸び悩んだ。ホールの特性を生かした上演は、出演者の熱演も相まって好評で、SNSでも話題となった。		
		実績 値	499	64.8%	専門家による批評記事	掲載1本以上	3件			
公-05	ロナウド・ブラウティハム	目標 値	577	74.9%	アンケートの満足度	上位2項目で80%以上	100%	アンケートが目標を達成した。ピリオド楽器の魅力と古典派音楽の心をお届けしたいという所期の目的は達成できたと考ええる。同日開催の競合公演が多かったことが集客目標未達成の要因と考えるが、事前の広報宣伝について反省が残る。		
		実績 値	503	65.7%						
公-06	フランス・オルガン音楽の 魅惑	目標 値	461	59.9%	アンケートの満足度	上位2項目で80%以上	93.70%	アンケートが目標を達成した。名手の演奏で独仏の特長を兼ね備えたオルガンの魅力をお伝えすることができたと考ええる。同日開催の競合公演が多かったことが集客目標未達成の要因と考えるが、事前の広報宣伝について反省が残る。		
		実績 値	351	45.6%	専門家による批評記事	掲載1本以上	なし			
公-07	メンデルスゾーン交響曲全 曲演奏会Vol.1	目標 値	456	59.2%	アンケートの満足度	上位2項目で80%以上	95.20%	すべての項目で設定した目標を上回った。シリーズ全体で事前記事も多く掲載されるなど、注目も集めた。この回ではリハーサル見学会を併せて開催し、将来の担い手となる音楽を学ぶ方々に有意義な機会を提供できた。		
		実績 値	537	69.7%	専門家による批評記事	掲載1本以上	4件			
公-08	メンデルスゾーン交響曲全 曲演奏会Vol.2	目標 値	536	69.6%	アンケートの満足度	上位2項目で80%以上	98%	すべての項目で設定した目標を上回った。シリーズ全体で事前記事も多く掲載されるなど、注目も集めた。ヴァイオリン協奏曲や、声楽を伴う交響曲に実力あるアーティストをソリストに迎えた。ほぼ完売となった。		
		実績 値	768	99.7%	専門家による批評記事	掲載1本以上	3件			
公-09	メンデルスゾーン交響曲全 曲演奏会Vol.3	目標 値	536	69.6%	アンケートの満足度	上位2項目で80%以上	94.10%	すべての項目で設定した目標を上回った。シリーズ全体で事前記事も多く掲載されるなど、注目も集めた。シリーズの核となる《エリヤ》を高水準の演奏でお届けした。		
		実績 値	622	80.8%	専門家による批評記事	掲載1本以上	3件			
公-10	メンデルスゾーン交響曲全 曲演奏会Vol.4	目標 値	563	73.1%	アンケートの満足度	上位2項目で80%以上	98.20%	すべての項目で設定した目標を上回った。シリーズ全体で事前記事も多く掲載されるなど、注目も集めた。ピアノ協奏曲を中心にメンデルスゾーンの管弦楽作品の魅力をお届けすることができた。		
		実績 値	751	97.5%	専門家による批評記事	掲載1本以上	3件			

事業 番号	事業名	入場者数		入場 者率	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	備考
公-11	いずみシンフォニエッタ大 阪 第53回定期演奏会	目標 値	431	56.0%	アンケートの満足度	上位2項目で80%以上	100%	3項目で目標達成。有料入場者数の未達成は現代音楽の普及の難しさ改めて認識させられた(反面、若年層の来場やサポーターが増加しており、次世代につながる成果と考えている)。		
		実績 値	454	59.0%	専門家による批評記事	掲載2本以上	2件			
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								

3. 自己評価

評価項目①:創造性・企画性

評価の観点
・(企画力)地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・(制作力)優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・(発信力・影響力)圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・(レジデントカンパニー・アーティスト)当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- ・ 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら、事業類型ごとに自己評価を記入してください。

	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
公演事業	●ビジョン1「独自の主催公演」 ・必須データ参照 ●ビジョン2「発信力の強化」 ・事前事後の記事の本数 ・ホームページビュー数 ・Xの平均インプレッション ●ビジョン6「ネットワークの活用と強化」 ・公演チラシの配布枚数 ●ビジョン7「経営基盤の安定化」 ・有料会員の占率の平均。 ・有料会員数 ●レジデント・オーケストラ／いずみシンフォニエッタ大阪 ・公－2、11：入場者数、アンケートの満足度 ・公－2、11：記事本数 ・公－2、11：ISO Youtubeチャンネル再生回数、 ・公－2、11：ISO Youtubeチャンネル登録者数	・券売数、アンケート満足度。 ・公演事業で概ね36本を目標とする。 ・年間100万回以上を維持する。 ・現状の平均3,000回を維持する。 ・各公演とも25,000枚以上の配布。(83.3%) ・各公演53％を目標とする。 ・前年度の3,600名から4,000名への増加を目指す。 ・各公演431名、高評価80％以上 ・概ね12本 ・年間で15,000回を目標とする。 ・現状750名から850名へと増加を目指す。	2.公演事業の実績記録と自己評価参照 記事数103件(事前：91、事後：12) ページビュー数：1,363,823 「X」平均インプレッション：3,593.3回 95.5％(平均) 51.58％(平均値) 3,803名 471名、95.2％／454名、100％ 記事件数：30 公－2(事前：12、事後：1)／ 公－11(事前：15、事後：2) 再生回数：27,485回／年 856名	設定した目標(11項目)に対し、9項目で達成した。 堀朋平(音楽アドバイザー)と取り組んだメイン企画「メンデルスゾーン 光のほうに」が非常に好調(チケット販売、事前の話題性、事後の評価等)で、評価指標を牽引する結果となった。 令和6年度上期はホール独自の取り組みである「いずみシンフォニエッタ大阪」「和のいずみ」「いずみホール・オペラ」が重なったが、いずれの公演も事前記事が数多く掲載され、話題作りの面で相乗効果もあったと考えている。記事化→SNSを活用しての拡散に戦略的に取り組んだ。発信力の強化として記事の本数を指標としたが、想定を大きく上回る結果となった。いずれの事業も、実力のあるアーティストとの協働や、独自の公演づくりを目指す、当ホールならではの取り組みに注目していただいた結果と受け止めている。 来場者アンケートではほとんどの回答者が「大変良い」「よい」のいずれかを選択(5段階評価のうち上位2つ)した。日頃から公演の準備に早期から取り組み、綿密なリサーチを重ねることで良質の公演を提供することを目指していることの結果と考えている。 一方で、有料来場者の伸び悩みが今後の課題である。フレンズ会員の拡大を図りたい。 レジデント・オーケストラ「いずみシンフォニエッタ大阪」の活動は批評家・新聞記者等、専門家からは高く評価していただいているが、現代音楽の普及の困難に立ち向かっている。Youtubeを利用した過去の動画の公開の取り組みは再生数やチャンネル登録者数など、じわじわと数を伸ばしており、今後も愚直に継続して行きたいと考えている。令和6年に音楽監督に就任した藤倉大氏とのあらたな取り組みを開始する。		
人材養成事業	●ビジョン5「次世代の音楽文化の担い手の育成」 ・国際コンクール優勝者の国内への紹介 ・応募者数、参加者数 ・参加者の事後アンケート結果 ●ビジョン2「発信力の強化」 ・事前事後の記事の本数	・人－1：来場者アンケートの満足度、高評価80％以上 ・人－1：入場者462名を目標とする。 ・人－2：応募者数：のべ80名を目標とする。 ・人－2：受講生対象、高評価70％以上。 ・人材養成事業で概ね2本を目標とする。	高評価91.6％ 278名 68名 92.5％ 1件	設定した目標(5項目)のうち、2項目を達成した。「ブルージュ国際古楽コンクール優勝者コンサート」は、次世代の音楽文化の担い手となる若手演奏家に演奏機会を提供することができたことに加え、第1部に独立したレクチャーを加える工夫で、スクジェツコフスキ氏が優勝した「ブルージュ国際古楽コンクール」や、ピリオド楽器演奏の現在について理解を深めていただくことができた。 「アートマネジメント講座」は、当ホールとしても久しぶりの試みであったが、当初、学生中心の受講者を想定していたものの、一般からの応募が多かった。コンサート・ホール実務者、音楽教室の講師の方、アマチュアで演奏活動をされている方など、音楽に携わる方がほとんどであったので、カリキュラムの大枠は変更せず、予定どおり実践的な内容をお伝えすることとした。次世代の担い手育成という点では課題が残ったが、地域の音楽文化の拠点として、「作る側」の情報を発信できた良い機会であったと考えている。 入場者数、広報に関する目標が未達成となった。事前の広報宣伝が今後の課題と考えている。		
普及啓発事業	●ビジョン1「独自の主催公演」 ・アンケート満足度 ●ビジョン4「『誰もがクラシック音楽に親しめる』音楽文化の拠点」 ・入場者数 ●ビジョン2「発信力の強化」 ・事前事後の記事の本数	・来場者アンケート高評価80％以上 ・要望書、交付申請書記載の目標人数 ・普及啓発事業で概ね4本を目標とする。	94.8％(平均) 1,674名(実績)／2,440名(目標) 5件	設定した目標(3項目)のうち、2項目を達成した。 オープンハウス以外は各事業とも、運営の都合で募集人数を要望書記載の目標人数未満の募集となり、来場実績が目標を下回る結果となっている。 来場者からの評価は良好である。 「オープンハウス」は、前回同様、前年実施の人材養成事業(マスタークラス)の受講生の成績優秀者への演奏機会提供の場を兼ねることとした。「子どもカレッジ」とともにU-30やユースシートなど、ホールの若年層対策を対象となる方々に直接周知する機会としても活用した。 「レクチャー＆コンサート」は音楽アドバイザー堀朋平がロータス・カルテットとともに姉ファニーの作品との比較を通してメンデルスゾーンの創作に迫る内容が、本シリーズへの導入としてうまく機能した。実力派カルテットの登場にこの種の公演としては異例だが批評記事が2本掲載となった。		

(2) 「創造性・企画性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

「メンデルスゾーン 光のほうに」の制作、公演をとおして、山田和樹氏との良好な関係をさらに深めることができた。

評価項目③:地域文化拠点機能

評価の観点
・(文化拠点)地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・(地域連携)地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・(児童生徒への機会提供)次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。 ・ホール利用サービス(貸館事業)の向上 ※ ・利用者からの申請に応じ協力、協賛等(割引等の優遇あり) ・52公演 ／ ・閑散期、直前申込等への割引 ・6公演 ／ ・リハーサル利用プラン等 ・3公演 (目標値は23年度実績に準ずる) ・自由設定の観点(任意)

※ ホール利用サービス(貸館事業)を行っていない場合は不要

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評定	所見	対応・追加情報など
●ビジョン3「地元アーティストとの協働」 ・事業への地元アーティスト起用 ●ビジョン4「『誰もがクラシック音楽に親しめる』音楽文化の拠点」 ●ビジョン5「次世代の音楽文化の担い手の育成」 ・OSAKA SHION WIND ORHESTRA鑑賞会への協力(共催:ホール無償貸与) ●ビジョン7「経営基盤の安定化」 ・大阪府市からの助成金獲得 ●ホール利用サービス(貸館事業)の向上 (ビジョン7に相当)利用者数維持・向上のための施策 ・利用者からの申請に応じ協力、協賛等(割引等の優遇あり) ・閑散期、直前申込等への割引 ・リハーサル利用プラン等	・公演事業11事業のうち、9本で実施。 ・普及啓発事業5事業すべてで実施。 ・4日間、約4000人来場を目標とする。(助成事業対象外) ・500万円 ・52公演(23年度実績) ・6公演(同上) ・3公演(同上)	公ー2, 3, 4, 6, 7, 8, 9, 10, 11 普ー1, 2, 3, 4, 5 4日間、3569名参加 大阪府:100万円(公ー7, 8, 9, 10) 大阪市:400万円(公ー2, 11) 47公演 11公演 11公演	設定した5項目のうち、4項目で目標を達成した。 現在、大阪府・市では共通の将来像「文化共創都市 大阪～文化芸術が未来を切り拓く～」を目指す、文化振興計画が進行している。文化芸術基本法の制定等の法整備の進展、SDGsの採択、令和7年の大阪・関西万博の開催など、地域、文化芸術を取り巻く状況の変化を踏まえたもので、「音楽による社会貢献、ウェルビーイングの実現」を掲げる当ホールの事業は地域文化拠点としてその実現に貢献できると考えている。 ミッションに掲げる「地域とのつながり」はビジョン③「地元アーティストとの協働」はその具体化の一つで、ホール独自の事業の特色ともいえる。令和6年度も多く事業で地元ゆかりのアーティストと一緒した。関西ゆかりのアーティストで構成される「いずみシンフォニエッタ大阪」(公ー2, 11)、ホールの特色を生かす「いずみホール・オペラ」(公ー4)にくわえ、令和6年度は山田和樹(指揮)、「大阪4オケ」、東京混声合唱団と取り組んだ「メンデルスゾーン 光のほうに」(公ー7, 8, 9, 10)が評論記事で非常に高く評価された。この取り組みは令和4年度の「シューベルト交響曲全曲演奏会」を踏まえてのもので、ホールが主体となって、4つのオーケストラと山田氏との協働を実現させたことについて、関係諸団体からも貴重な機会・経験となったとお声を頂戴した。 大阪府、大阪市の助成については、先述の通り、府・市の文化政策に合致していることに加え、当ホールの取り組みが大阪・関西からの文化発信に寄与するものと評価していただいてのことと受け止めている。 貸館事業について、利用数は前年度から順調に推移しているなかで、ニーズに応じたプラン提案、協力等を通じ「地域の音楽文化の拠点」として、文化振興に寄与することができた。		

(2) 「地域文化拠点機能」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

OSAKA SHION WND ORCHSTRA鑑賞会の取り組みのほか、日本室内楽振興財団との共催で「ミュージックアトリエ」(舞台上に観覧スペースを設け、間近にクラシック音楽の演奏を味わっていただく子ども向けの企画)を開催。また、住友生命福祉文化財団の福祉事業として「みんなのコンサート」(児童福祉施設等にお声掛け)を開催、「子どもカレッジ」(普ー2)や、ユースシート、U-30 の取り組みと合わせ、「ビジョン4, 5」につながる取り組みを拡大している。(いずれも助成事業対象外)
--

評価項目④:多様性とアクセシビリティ

評価の観点
・(プログラムの多様さ)プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・(参画者の多様さ)アーティストやスタッフとして参画する人々の属性(性別、年代、居住地、他)が多様である。 ・(アクセシビリティ)障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
●ビジョン4「『誰もがクラシック音楽に親しめる』音楽文化の拠点」 ・普及啓発事業における入場者数 ・スタッフ研修:障がい者接遇講習会受講割合 ●ビジョン5「次世代の音楽文化の担い手の育成」 ・公演事業11公演におけるユースシート(18歳以招待待)、U-30(30歳以下特別価格)の利用者数の合算。 (参画者の多様さ)	・要望書、交付申請書記載の入場目標値 ・レセプションистを含めて、80%以上 ・各公演平均38名を目標とする。 ・アンケートにより、計測する(年齢、性別、居住都道府県) →近畿圏以外の地域から来場があるか。 →来場者の年齢層は幅広いか。	1,674名(実績)／2,440名(目標) 54.5% 39名(平均) 主に関西圏が多いが、首都圏、中京圏、中四国、九州からの来場がある公演がある。 60代、70代に偏りはあるが、幅広い年齢層の方に来場していただいている。	設定した5項目のうち、3項目で目標を達成した。 当ホールではオフィスビルと一体化しており、建築上バリアフリーの改造が困難であるが、ビルエレベーターの利用で入場の利便性を高めた。ロビーからは研修(講習会)受講済みの職員、レセプションистが必要なお手伝いを担っている。「夢コンサート」に合わせて例年講習会を実施している。今年度の受講実績は54.5%(未受講者が少なかったため)であった。 若年層の来場機会の増加に継続的に取り組んでおり、ユースシート、U-30の浸透、普及を図っている。令和6年度は公演事業平均で39名で目標を達成した。 近年のアンケート結果の傾向同様、来場者の年齢は60代70代に偏りがあるが、幅広い年齢層に来場していただいているが、30代、40代の来場数が特に少ない。「仕事」「子育て」等、自由な時間が作りにくい世代であるとも考えられるが、ユースシート、U-30の取り組みによって「コンサートに行く習慣」につながることを期待している。 男女差はほぼ半数である。 来場者の住まいはほぼ関西圏が占めているが、ツアー公演や類似の公演がない、あるいは当ホールのオリジナル企画(いずみシンフォニエッタ大阪、いずみホール・オペラ)といった広域集客を想定している公演については全国からの来場が見られる(やや西日本に偏在している)。大阪は全国的に見ても比較的アクセスの手段が豊富であると考えており、ホール・オリジナル企画の発信によって多様な来場者にお越しいただければと考えている。		

(2) 「多様性とアクセシビリティ」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

評価項目⑤: 自由設定(任意)

①創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性 の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。

評価の観点
「地域の音楽文化の拠点としての役割」として、来場者が何を求めているか。

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
・主催公演アンケートの自由記述欄の分析 ・モニター(住友生命)へのヒアリング ・アンケートのクロス集計で、来場者の層分類と来場傾向の分析	アンケートの詳細な分析と、ヒアリングを組み合わせ、「地域の音楽文化の拠点」としてのあるべき姿のアップデート、ミッション・ビジョンのブラッシュアップを目指す。	ホールへの来場回数の多寡、男女差等でアンケート自由記述欄の分析を試みた。男女差での回答の差はほとんど見られなかった。 ①来場回数の多い方(リピーター層)はホールのサービス面への言及が多く、公演内容についての要望はあまり多くない。また、起用してほしいアーティストの要望も過去に当ホールへの出演実績のあるアーティストの希望が多く、当ホールのこれまでの企画内容やアーティスト選定に一定の信頼を持っていたいただいていることがわかる。一方で来場回数が少ない方の場合回答が二分し、②他会場へはよく行かれていると見受けられる方、③あまりクラシック音楽を聴かないと見受けられる方とに分類できた。他会場へいかれる方にはスター志向の方が多く、公演内容の要望も多岐にわたる。あまり行かない方はテレビやSNSで活躍する方の演奏を聴きたいという要望が見られた。 また、「3.④多様性とアクセシビリティ」の項目でも述べたように、広域集客を目指した公演の場合、遠方からでも来場されている。	地域の音楽文化の拠点として、様々な公演を提供することを旨とし、バラエティに富んだラインナップを組む努力をしている。 ①に分類される方は我々が公演制作の際に想定する客層である。今後の来場者数増加を目指すにあたり、②、ないし③またはまだ来場されていない未知の方に訴求する必要があると考えられる。 ①の方々に支持していただいている現状に甘んじることなく、その他の方々にも興味を持っていただけるラインナップのために調査研究を深めるとともに、マーケティングの手法を応用した需要の掘り起こしなど、従来と違った角度からのアプローチを試みる必要があると考えている。 広域集客可能＝魅力ある公演ともいえるが、受け手にとって「魅力」のポイントはさまざまであり、多角的に考える必要がある。		

評価項目⑥: 運営体制と持続可能性

評価の観点		現状	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
「実現性」の評価項目より							
(ア)	(多様な財源の確保) 予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。	収支バランスを考え、無理のない予算計画を立案している。助成金、協賛金の獲得に務めている。	24年度は協賛金の増額を目指す。	収支バランスを考え、無理のない予算計画を立案している。助成金、協賛金の獲得に務めている。	長期的な経営計画に基づき、予算計画を立案。助成金・協賛金を計画的に獲得することができた。		
(イ)	(広報・営業力) 広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。	専任の職員を配置し、計画的な広報を実施している。DX化の取り組みを推進。	24年度は従来の新聞媒体から雑誌、ウェブ、オウンドメディアヘシフト。DXとの統合を図る。	広告を雑誌メディアにシフトし、一定の成果を上げたと思料する。	記者会見を中心に広報計画を策定、想定以上の記事化につながった。話題を提供することでホールへの注目を集めることにつながった。		
(ウ)	(他館連携) 他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。	企画により、アーティストの招聘を共同で実施するなど協力。	今後も緊密な連携を維持する。	連携を維持した。	緊密な連携を維持し、地域を超えてアーティスト招聘等の協力を実施した。		
(エ)	(設置者) 円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。	設置者である住友生命から出向者を受入れ。綿密な意思疎通と財源確保ができています。	今後も緊密な連携を維持する。	住友生命から出向者を受入れ。綿密な意思疎通と財源確保ができています。	設置者である住友生命と連携し、中長期的な経営計画を立案。出向者が経営をになっている。		
「持続可能性に関するチェックシート」より							
(オ)	(芸術監督) 芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。	音楽アドバイザー堀朋平をはじめ、専門家との共同で公演の芸術性を担保している。	今後も緊密な連携を維持する。	堀朋平音楽アドバイザーとの連携を深め、いずみシンフォニエッタ大阪音楽監督に藤倉大が就任した。	ミッション・ビジョンに基づき、公演の芸術性を担保できるよう、中長期的な視点から公演計画・準備を実施できている。		
(カ)	(長期的経営) 長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。	上記(エ)の通り、経営は住友生命からの出向者が担っている。	今後も緊密な連携を維持する。	経営は住友生命からの出向者が担っている。	設置者である住友生命と連携し、中長期的な経営計画を立案。ミッション・ビジョン実現にむけた運営ができている。		
(キ)	(専門人材の確保) 今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。	企画・広報に専門人材を配置、OJTを基本とした人材育成に努めている。	スムーズな世代交代ができるよう、人材育成を図る。	スムーズな世代交代ができるよう、人材育成を図っている。	OJTにより、企画・広報の専門人材として若手職員育成に努めた。		
(ク)	(職制の整理) 芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。	上記(オ)～(キ)の通り、人材を配置、それぞれの職務内容ごとに指導、役割分担がなされている。	適切な人事異動を実施し、バランスよくプロフェッショナル人材育成する。	バランスよくプロフェッショナル人材を育成している。	次世代の担い手を育成しつつ、リーダー職・専門人材のスキルアップも図っている。		
(ケ)	(世代間バランス) 年齢バランスを考慮した人材確保を行っている(若年層の雇用に努めている)。	計画的に若年層の採用を進めている。	適切な世代間バランスを保つよう努める。	適切な世代間バランスを保つよう努めている。	次世代に持続可能なホール運営を目指し人材を確保している。		
(コ)	(ジェンダーバランス) 女性管理職比率が30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。	女生リーダー職の割合は60%。今後も実力に応じた登用を進める。	適切なバランスを保ち、人材育成を実施する。	女生リーダー職の割合は60%。今後も実力に応じた登用を進める。	実力に応じた登用を進めるなかで、ジェンダーバランスを良好に保っている。		
(サ)	(ワークライフ・バランス) 仕事と育児・介護等の両立支援制度を整備し、推進している。	各種休暇等、支援制度を整備、推進している。	引き続き職場環境の維持に努める。	各種休暇等、支援制度を整備、推進している。	各種休暇等、支援制度を整備、推進。働きやすい職場環境の整備に努めている。		
(シ)	(コンプライアンス順守) 情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。	専門の管理職を配置、情報セキュリティの保持、コンプライアンス遵守に努めている。	引き続き、水準を維持する。	専門の管理職を配置、情報セキュリティの保持、コンプライアンス遵守に努めている。	専門管理職による定期的なチェックを実施。日常的にコンプライアンス遵守の意識が醸成されている。		
(ス)	(ハラスメント防止対策) 職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。	グループ会社で内部通報制度を確立、ハラスメント防止に努めている。	研修内容の充実を図る。	グループ会社で内部通報制度を確立、ハラスメント防止に努めている。	人権研修等を通じ、ハラスメント防止と、職場環境の整備に努めている。		
(セ)	(適正な契約事務) アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。	適正な契約事務を遂行している。	引き続き、適正な契約事務を遂行する。	適正な契約事務を遂行している。	フリーランス法等、関係する法令の周知徹底に努めたほか、業界ガイドラインに沿った適正な契約事務を遂行している。		

4. 総評

・ 団体の自己評価

当ホールでのミッション「世界とのドア」と「地域とのつながり」を実践する事業を実施した。ミッションを具体化する「7つのビジョン」と各公演とのかかわりを可視化することで公演ごと、評価の観点ごとの目標を設定することができた。多くの項目で目標を達成することができた。各ビジョンに照らし合わせて述べたい。

【ビジョン1】 独自性があり他のホールではできない主催事業の開催
令和6年度事業については、堀朋平音楽アドバイザーや、ミシェル・ブヴァール、山田和樹氏、故・西村朗氏ら専門家と早い時期から計画を立案し、綿密なリサーチを実施し公演の計画を作成してきた。その結果として、多くの公演アンケートで高評価をいただけた。事後の批評記事に取り上げていただく機会を得ることができたと考えている。

【ビジョン2】 発信力の強化 — 「より広く」「より深く」
先述の通り、「ホール独自の企画」を追求し、大阪・関西からの音楽文化の発信、文化振興に寄与することを目指すなかで、公演の広報にも注力した結果、事前記事、事後記事(批評を含む)の件数が本助成対象公演だけでも36件を数えた(対象事業以外のホール主催公演関連のものは約190件)。SNSを活用し、公演の情報を周知することで、集客数の増加を図った。奏功した公演が多いものの、中には競合する他公演の影響等で集客が伸びなかった事業もあり、広報宣伝の強化を今後の課題の一つと考えている。

【ビジョン3】 地元アーティストとの協働
いずみシンフォニエッタ大阪はじめ、多くの主催公演に地元関西・大阪にゆかりあるアーティストを起用している。令和6年度は大阪に拠点を置く4つのオーケストラによる「メンデルスゾーン 光のほうに」を実施し、連携をより深めることができた。貸館公演数も令和5年度につづきコロナ前に回復した水準を維持、地元関西の演奏家・愛好家の皆様の演奏の場として活用していただくことができた。

【ビジョン4】 「誰もがクラシック音楽に親しめる」音楽文化の拠点 — 「持続可能な舞台芸術」を目指して
クラシック音楽文化の「裾野を広げる」活動も重要視している。若年層の鑑賞機会の充実をはかるため、普及啓発事業を中心に取り組んだ。多くの主催公演に設定しているユースシート、U-30の利用が好調で、若年層拡大の手ごたえを感じている。

【ビジョン5】 次世代の音楽文化の担い手の育成 — 「持続可能な舞台芸術」を目指して
人材養成事業として、久しぶりにアートマネジメント講座を実施した。人数は目標にやや届かなかったものの、受講者からの感想・意見等に手ごたえを感じた。実演家要請の「マスタークラス」と併用することで、演奏者、スタッフ双方の次世代の担い手の育成に寄与してゆきたいと考えている。出張授業、インターンの受入れ等、教育機関との連携も実施、多角的な取り組みを今後も継続したい。

【ビジョン6】 ネットワークの活用と強化
ビジョン1や3につながるが、様々なレベル、かたちでの連携を国内・国外を問わず形成している。令和6年度は「メンデルスゾーン 光のほうに」で大阪のオーケストラとの関係強化のほか、東京混声合唱団との関係強化がに代表的な成果であったと思料する。

【ビジョン7】 経営基盤の安定化
当ホールの収入の多くは設置者である住友生命からの寄付金であるが、貸館料収入、チケット収入も大きな柱である。先述の通り、利用数の回復によって貸館料収入が改善した。チケット収入の増加のため、ホール会員組織「フレンズ」の拡大に注力した。年度目標にはやや及ばなかったものの、コロナ禍での減少分を越える回復基調にある。チケット購入につながるアクティブな会員層の形成が今後の増収の課題と考えている。

このように、それぞれのビジョンに対応する活動で一定の成果を残すことができている、ミッションの意義をより深めることができたと考えている。
ただ、個別の設定目標の中で未達のものがあるのも事実で、その一つ一つについて原因の考察と対策を講じる必要がある。
令和7年度含め、この先はその点を踏まえ、より質の高い事業の提供に努めたいと考えている。

・ 所見

